

伊万里湾のカブトガニ

市民の力で守られている「生きている化石」



伊万里市・唐津市などに面し、大小の島々が浮かぶ景勝地として知られる伊万里湾。ここは、絶滅危惧種であるカブトガニの繁殖地でもあります。



伊万里湾を臨む風景 多々良海岸沿いにある、「伊万里湾カブトガニの館」では、常時

カブトガニの見学が可能です。

(酒見良司氏提供)

絶滅が危惧される「生きている化石」

伊万里湾は、有田川や伊万里川などの河川が運んできた土砂によって干潟が発達しています。特に、湾奥部の伊万里市多々良海岸には、カブトガニの産卵に必要な砂地と、その後方に幼生(子ども)が成長する干潟があり、日本で有数の繁殖地となっていま



調べてみよう? カブトガニは他の場所に生息していないだろうか?

COLUMN

天然記念物

貴重な生物や自然環境の保護・保存を目的として国や自治体が指定するもので、動物、植物、地質・鉱物、天然保護区域の4種類があります。佐賀県では、県鳥であるカササギ(カチガラス)の生息地をはじめ15件が国の天然記念物に指定されています。(平成29年2月現在)



(佐賀県広報広聴課提供)



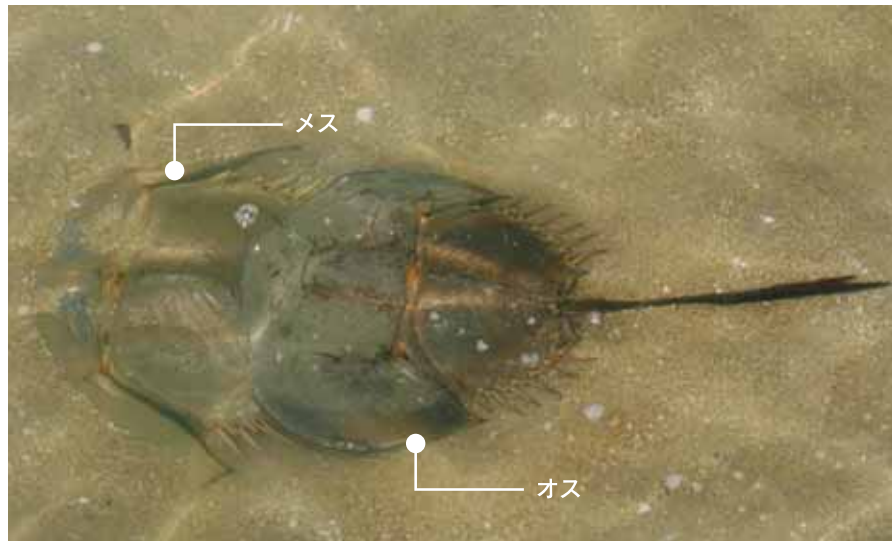
(空岡市立カブトガニ博物館提供)

メソリムルスの化石

メソリムルスは、中生代ジュラ紀にヨーロッパからアジアにかけて広く生息していたと言われています。

す。カブトガニの繁殖に必要なきれいな海水と砂地、栄養豊富な干潟は、市民の努力により守られてきました。

カブトガニは、カブトガニ科に属する節足動物です。



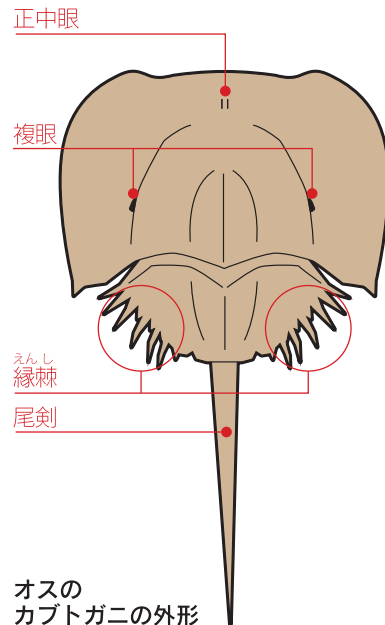
つがい(メスの後ろにオスがくっつく状態)で産卵するカブトガニ

(酒見良司氏提供)

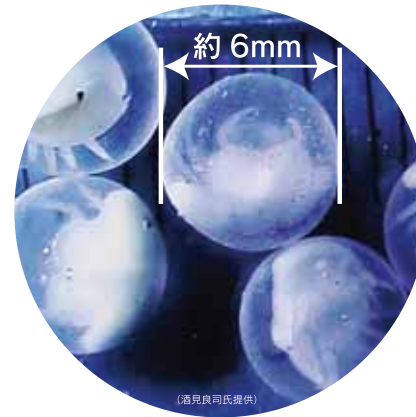
毎年6月～8月の大潮の日の満潮時に、カブトガニがつかいで浜にやってきて産卵する姿を見ることが出来ます。多々良海岸では、毎年7月中旬にカブトガニの産卵を観る会が開かれます。

名前に「カニ」が含まれていますが、カニなどの甲殻類ではなく、分類上はカニよりもクモに近い生き物です。カブトガニは、伊万里では鉢を伏せたような姿から「ハチガメ」とも呼ばれてきました。

カブトガニの特徴は、カニのような甲羅に覆われた背面と、そこから伸びる尻尾のような「尾剣」



オスのカブトガニの外形



ふ化直前の卵(回転卵)

生まれる前から卵の中を卵の中を後ろ回りに回転します。



(牧島のカブトガニとホテルを育てる会提供)

市民によるカブトガニ保護活動

市民によって、多々良海岸ではカブトガニの産卵期の前に清掃活動が行われています。

前の中生代ジュラ紀に生息していたメソリムスの化石とよく似ていることや、そのころからほとんど形態が変わっていないことから「生きている化石」と呼ばれています。カブトガニは脱皮成長をしますが、幼生は雌雄同じ形態です。最後の脱皮で雌雄の形態が異なります。これは、つがいになるための変化です。成体になるまでに14～15年はかかると言われています。

かつて、瀬戸内海から九州北部沿岸にかけて生息していたカブトガニですが、海岸の埋め立てや護岸工事などによって、年々生息地が狭められています。そのため、カブトガニは、現在、環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅰ類※1に選定され、国内での絶滅が懸念されています。

佐賀県では、伊万里湾の他に玄界灘沿岸にもカブトガニは生息しています。

※1 すでに絶滅していたり、絶滅寸前に追いやられている動植物のこと。Ⅰ類はごく近い将来、絶滅の危険があること、Ⅱ類は絶滅の危機が増大していることを指す。

保護に取り組む市民団体と伊万里高等学校

伊万里市でのカブトガニ保護活動の始まりは、1963(昭和38)年に**伊万里高校生物部**(現在は理化・生物部)の調査研究への取り組みからです。同部では、繁殖のための幼生飼育や放流を行うほか、保護活動に携わる小・中学校への指導も長年続けています。

伊万里高校生物部の活動に続いて、1979(昭和54)年には**伊万里市カブトガニを守る会**が発足しました。

1986(昭和61)年から伊万里高校生物部が、つがいで産卵している数の調査を毎年行っており、この調査結果は、伊万里湾におけるカブトガニの生息数変化の貴重な基礎データとなっています。

同年、学生や市民の熱意が実り、伊万里市は多々良海岸約29万㎡をカブトガニ繁殖地として天然記念物に指定しました。

市民を始めとする保護活動は広がり、2006(平成18)年に誕生した**「^{まきしま}牧島の^{そだ}カブトガニと^{かい}ホタルを育てる会**」などをはじめ、伊万里海洋少年団などの団体では、毎年、カブトガニの産卵場所である多々良海岸の



脱皮して成長するカブトガニ

(牧島のカブトガニとホタルを育てる会提供)

「生きている化石」と呼ばれるカブトガニは、脱皮を繰り返しながら大きくなっていきます。メスの方が脱皮の回数が1回多いため、オスより大きくなります。

清掃活動を行い、流れ着いたごみなどを丹念に拾い集め、美しい砂浜を維持しています。

2015(平成27)年、国は、「**伊万里湾カブトガニ繁殖地**」を天然記念物に指定しました。指定対象区域は伊万里市瀬戸町の多々良海岸、指定面積は伊万里市が指定した区域の約2倍となる約58万㎡です。「カブトガニが産卵する砂浜とその幼生が生育する干潟が良好な状態で維持されており、地域における保護意識も高く、重要な繁殖地である」ことが指定理由です。地域の人々のカブトガニへの思いが、「生きている化石」を守り続けているのです。

学校の取組

【伊万里湾とカブトガニ】

■佐賀県立伊万里高等学校

伊万里高校では、50年以上カブトガニの産卵調査、産卵地である多々良海岸の清掃を行っています。



調べて書いてみよう!

カブトガニの血液は青色です。あなたが知っている血液の青い生き物の名前を書いてみましょう。



出かけてみよう!



伊万里湾カブトガニの館 (伊万里市瀬戸町 3134-448)

生きたカブトガニのほか、脱皮パネルや脱皮殻などが展示されています。

TEL 0955-22-5783(牧島公民館)

休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始 ※7~8月は無休

営業時間 7~8月...9:00~17:00、9~6月... (平日) 10:00~16:00 (土日祝) 9:00~17:00

(伊万里市提供)



検索してみよう!

伊万里港

カブトガニ産卵

佐賀県天然記念物

カブトガニ 世界分布

